

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成19年12月6日(2007.12.6)

【公開番号】特開2002-206914(P2002-206914A)

【公開日】平成14年7月26日(2002.7.26)

【出願番号】特願2001-3635(P2001-3635)

【国際特許分類】

G 01 B 9/02 (2006.01)

【F I】

G 01 B 9/02

【手続補正書】

【提出日】平成19年10月22日(2007.10.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

可干渉距離の短い低可干渉性の光源を備えた光源部10から射出された発散光線束は、ハーフプリズム19によって方向を転換され、コリメータレンズ15によって平行光線束とされ、この後、光束分割合成手段1に入射される。この光束分割合成手段1は平板状の単独の部材よりなり、後述するようにコリメート光を参照光4a(4aCおよび4aCCを4aと総称する)および測定光5a(5aCおよび5aCCを5aと総称する)に分割するとともに、参照光4b(4bCまたは4bCCのうち干渉縞生成に関わる光束を4bと称する)と測定光5b(5bCまたは5bCCのうち干渉縞生成に関わる光束を5bと称する)とを合成する機能を有する。ここで参照光4bは、参照光4aが参照面16aで反射されて戻ってきた光束であり、測定光5bは、測定光5aが前記被検体および前記平面反射ミラーを経由して前記光源からの光軸に略一致した光軸で逆送してきた光束である。なお、この光束分割合成手段1は、図1に示されるような単独の部材からなるものばかりでなく、複数の平板状の部材を、参照光4aと測定光5aを分割する面および参照光4bと測定光5bを合成する面が各々面一となるように連結あるいは結合させて、一部材となしたものであっても良い。